

# 増やさないようにしよう



## 大館では餌が採れないと カラスに教えなければならぬ

大館自然の会会長

明石 良蔵さん

私たちは「野鳥を保護する」という立場で、以前からカラスの増加が小鳥の減少に影響を与えているのではないかと注目していました。カラスが餌を採る分、野鳥の数が減るという相関関係があると思うのです。

**野生の環境では、適正な生息数があるはず**

カラスには、ハシブトガラスとハシボソガラスの2種類があります。ハシブトガラスは、や体が大きく、くちばしが太いのが特徴で、森のカラスとも言われます。ハシボソガラスは、や体が小さく、くちばしが細いのが特徴で、平地のカラスとも言われます。

どちらも野生の環境では、適正な生息数があるはずですが、人間の出すごみが直接カラスを養って繁殖し、増えているのではないのでしょうか。

その意味で、今回の黄色ネットは、大変に効果があるものと言えます。色を認識するカラスにとって、この黄色はかなり強烈な色らしく、黄色ネットの下

にあるごみ袋は見えないように、ごみを荒らすこともできないようです。

**ごみステーションとカラスの飛来数**

中心市街地のごみステーションとカラスの関係を調査した結果が左上の表です。調査区域を4つに分けて、2月6日のごみ収集日から毎月、それぞれの区域のカラスを計測しています。

2月の調査では、①と②の区域にはハシボソガラスの集団が入っていたため、かなりの数が確認されています。  
③の区域は金網張りのごみステーションが多いので、比較的数量が少ないようです。  
④の区域では、導入された黄色ネットのごみステーションにはほとんど寄り付かず、その他のネットやネットのないごみステーションに集中しています。

**ガードの甘い場所に移動する**

全体に金網張りや黄色ネットのごみステーションにはカラスが少ないことから、その有効性は大きいようです。しかし、こ

の時点では、ガードの甘い場所に群れが移動しているという傾向があります。

**カラスが少なくなっている？**

3月、4月の結果を見ると、どんな数が減少しているのかわかります。これは、黄色ネットの効果もいくぶんあるでしょうが、繁殖期が近くなり冬ねぐらが解けて、それぞれの地域にカラスが散っていった結果と思われるようです。

つまり、もともと中心市街地周辺で暮らしているカラスだけ残った数が、4月の計測数程度ではないかということです。春の繁殖期には少し増えても、この程度の数で推移するのではないのでしょうか。

**繁殖期こそガードを固く**

ほかの動物同様、カラスも餌が多いと繁殖数が増えます。これからが、カラスの繁殖期ですから、特に生ごみなどを出さないようにする必要があります。出るごみの量を減らすことはもちろんですが、コンポストなどでリサイクルすることも、結

### カラスにこんな会話をさせたい



**ハシブトガラス**

●や体が大きく、くちばしが太いのが特徴で、森のカラスとも言われます。



**ハシボソガラス**

●や体が小さく、くちばしが細いのが特徴で、平地のカラスとも言われます。

最近餌が少なくなって  
大館も暮らしにくいね～

黄色いネットなんかで、  
生ごみも探しくく  
なったね～